

日本福音ルーテル岡崎教会教会堂 平成25年12月24日登録

登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの

登録理由：岡崎市伝馬通4丁目にあり、伝馬通の北側に位置する。屋根には十字架付きの小尖塔をのせる。ヴォーリズ晩年の設計として、礼拝堂と教会学校の機能を融合させた福音ルーテル教会の宣教強化期の教会堂。

所在地：岡崎市伝馬通4丁目54

構造：木造平屋建一部2階、尖塔付、塩焼赤瓦葺

建築面積：137㎡

建築年代：昭和28年（1953）

設計：ヴォーリズ建築事務所

日本福音ルーテル岡崎教会の歴史

アメリカのミネアポリスに本部を置く福音ルーテル教会は、昭和24年に日本への宣教を開始し、東京福音ルーテル教会が設立されました。昭和25年には東海地方へもひろがり、昭和27年にJ.M.ホームステッド牧師により岡崎への宣教が開始されました。

昭和24年（1949） 福音ルーテル教会の日本への宣教開始

昭和27年（1952） 岡崎への宣教開始

昭和28年（1953） 救主福音ルーテル教会岡崎教会堂の建築

昭和38年（1963） 日本福音ルーテル岡崎教会となる

日本福音ルーテル岡崎教会教会堂の建築的特徴

日本福音ルーテル岡崎教会の設計は、滋賀県八幡町（現・近江八幡市）のヴォーリズ建築事務所の滝川健次であり、設計は昭和28年の初頭から春にかけて行われ、施工は岡崎市明大寺町の小原建設株式会社が請け負いました。

ヴォーリズ建築事務所は、明治38年（1905年）キリスト教の布教のために滋賀県立商業学校の英語教師としてアメリカより来日したW.M.ヴォーリズ（1880-1964）によって、明治41年に開業したヴォーリズ合名会社に始まります。愛知県内にはヴォーリズ設計の建築は少なく、現存するものはわずかであり、貴重です。

教会堂は戦後の復旧期に建てられた木造教会で、塩焼赤瓦屋根と白い壁、さらに教会堂の屋根にある十字架に特徴があり、小規模ながらも清楚で、色彩的にコントラストのある外観です。

内部中央の礼拝堂の天井は化粧小屋組で、キングポストトラスを見せています。壁を含め全てを白い空間とし、これにより礼拝堂としての清廉さと厳粛さを表現しています。これに加え、窓からの採光に工夫が凝らされ、中心の十字架周辺がより白く輝くように演出されています。



竣工間もない教会堂



キングポストトラスの天井



教会堂中央部